



# Sun Fire™ X2100 サーバークイック スタートガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 819-4604-10  
2005年10月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先にお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティーソフトウェア（フォントに関するテクノロジーを含む）は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品のの一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザインターフェイスは、Sun Microsystems, Inc. がユーザおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。Sun 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。Sun 社は、Xerox グラフィカルユーザインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する Sun 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は Sun 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「あるがまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuels relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuels peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

## 1. 装置の設置 1

安全性および適合規格 1

装置の設置 2

パッケージ内容の確認 3

スライドレール（オプション）によるサーバーのラックマウント 3

スライドレールの分解 4

固定用ブラケットのサーバーへの取り付け 6

スライドレールアセンブリのラックへの取り付け 7

サーバーのスライドレールアセンブリへの取り付け 9

CMA の取り付け 11

ケーブルの接続と配線 16

スライドレールと CMA の動作確認 17

サーバーのケーブル配線 17

サーバーの相互接続 19

サーバーの電源投入 20

サーバーの電源切断 21

## 2. ソフトウェアのインストール 23

インストールの準備 23

プライマリブートディスクの消去 25

オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定	25
オペレーティングシステムのインストール	26
up2date ユーティリティの実行	27
ドライバのインストールと診断パーティションのマウント	28
ドライバをネットワーク経由でインストールする	28
Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を使ったドライバのインストール	35
<b>3. インストール済みソフトウェアの設定</b>	<b>43</b>
Solaris 10 オペレーティングシステム	43
Solaris 10 オペレーティングシステム設定の概要	43
設定の手順	45
Java Enterprise System	47
インストールチェック	48

# 序章

---

『*Sun Fire X2100* サーバークイックスタートガイド』では、ワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアの設定、電源投入および構成について説明します。

---

## 本書の構成

本書は次の章で構成されています。

第1章では、ワークステーションの開梱、ラックの取り付け、ケーブル配線および電源投入の方法について説明します。

第2章では、Sun Fire X2100 サーバースがサポートするオペレーティングシステムと、システムに付属しているドライバについて説明します。

第3章では、出荷時にインストールされている Solaris™ 10 オペレーティングシステムと付属のソフトウェアの設定方法について説明します。

---

# シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザ	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザ	#

---

# 表記

フォント <sup>1</sup>	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力	.login ファイルを変更します。 すべてのファイルをリストするには、 ls -a を使います。 % You have mail.
AaBbCc123	画面上のコンピュータ出力に対してユーザが入力する内容	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	マニュアルのタイトル、新しい用語、強調する用語。実際の名称や値に置き換えるコマンド行の変数。	『ユーザガイド』の第6章をお読みください。 これらは <i>class</i> オプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <i>ファイル名</i> を入力します。

1 ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## 関連ドキュメント

オンラインと記載されているドキュメントは、次のサイトから入手できます。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup\\_Servers/x2100/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/x2100/index.html)

用途	タイトル	部品番号
システム設定情報	<i>Sun Fire X2100 Server Setup Guide</i>	819-3719-xx
概要およびサービス情報	<i>Sun Fire X2100 サーバーユーザガイド</i>	819-4598-10
安全上の注意	<i>Important Safety Information for Sun Systems</i> <i>Sun Fire X2100 Server Safety and Compliance Guide</i>	816-7190-10 819-3723-xx
最新情報	<i>Sun Fire X2100 サーバーリリースノート</i>	819-4592-10

---

## 文書、サポート、トレーニング

分野	URL	説明
文書	<a href="http://www.sun.com/documentation/">http://www.sun.com/documentation/</a>	PDF バージョンまたは HTML バージョンのドキュメントのダウンロードや印刷バージョンのドキュメントの注文
サポートとトレーニング	<a href="http://www.sun.com/supporttraining/">http://www.sun.com/supporttraining/</a>	テクニカルサポート、パッチのダウンロード、Sun のトレーニングコースの詳細

---

## 他社のウェブサイト

Sun は、本書に記載されている他社のウェブサイトの更新情報については責任を負いかねます。また、他社のウェブサイトやリソースに掲載されているコンテンツ、広告、製品などについては何ら保証義務または責任を負わないものとします。さらに、他社のウェブサイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際のまたは疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

弊社は、ドキュメントの改善を常に心掛けており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。  
*Sun Fire X2100* サーバークイックスタートガイド、819-4604-10

## 装置の設置

---

本章では次の項目について説明します。

- 「安全性および適合規格」 (1 ページ)
  - 「装置の設置」 (2 ページ)
  - 「パッケージ内容の確認」 (3 ページ)
  - 「サーバーのケーブル配線」 (17 ページ)
  - 「サーバーの電源投入」 (20 ページ)
  - 「サーバーの電源切断」 (21 ページ)
- 

## 安全性および適合規格

Sun Fire X2100 サーバーの安全性に関する情報は次の資料に記載されています。

- 製品パッケージに同梱の「*Important Safety Information for Sun™ Hardware Systems*, 816-7190-10」
- 次の URL に掲載されている「*Sun Fire X2100 Server Safety and Compliance Guide*, 819-3723-xx」

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup\\_Servers/x2100/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/x2100/index.html)

# 装置の設置

以下に、Sun Fire X2100 サーバーの設置手順をフロー図で示します。

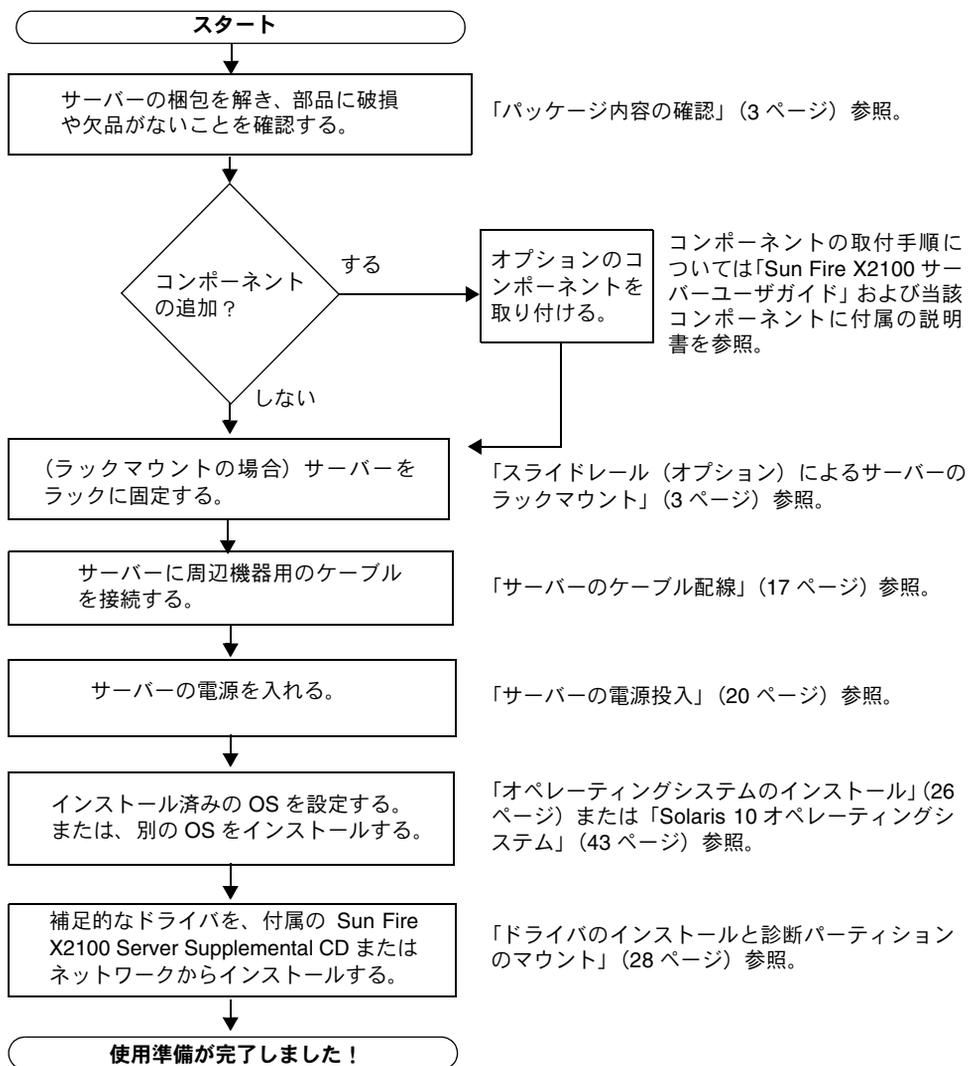


図 1-1 Sun Fire X2100 サーバーの設置手順

---

## パッケージ内容の確認

製品ボックスを開梱して内容物をすべて取り出し、破損や欠品のないことを確認してください。Sun Fire X2100 サーバーは次の部品から構成されます。

- Sun Fire X2100 サーバー説明書
  - *Sun Fire X2100 Server Setup Guide*
  - *Sun Fire X2100 サーバー リリースノート*
  - *Important Safety Information for Sun Hardware Systems*
  - *Sun* バイナリーコードライセンス
- Sun Fire X2100 Server Supplemental CD (各種ドライバおよび診断ソフト含有)
- (オプション) ラックマウント用キット

電源コード、キーボード、マウスを含む国別アクセサリキットは、他の部品と分けて梱包されています。

---

## スライドレール (オプション) によるサーバーのラックマウント

スライドレール (別注品) を使ってサーバーを標準ラックに取り付ける場合には、以下の手順でマウント作業を行ってください。スライドレールは、次の仕様を満たす標準ラックに対応しています。

- 前後左右で固定する形式の 4 支柱ラック。2 支柱のラックにはマウントできません。
- 1U の幅と高さが ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 に適合すること。
- 前方と後方の支柱の間隔が 610 ~ 915 mm (24 ~ 36 インチ) であること。
- 前方の支柱とキャビネット正面ドアとの間に 25.4 mm (1 インチ) 以上の間隔があること。
- 前方の支柱とキャビネット背面ドアとの間に 800 mm (31.5 インチ) 以上の間隔があること。但し、CMA アームを取り付けない場合には 700 mm (27.5 インチ) で良い。
- 前方の支柱と後方の支柱との間にある構造サポートとケーブルスルーとの距離が 456 mm (18 インチ) 以上であること。



---

**ご注意：** ラックへは必ず下から先にサーバーを取り付けてください。上から順に取り付けるとラックが不安定になり、転倒する危険が生じます。転倒防止機構を装備しているラックであれば、サーバー取付時に活用してください。

---



---

**ご注意：** ラック内の気温がサーバー周辺温度の許容値を越えないようご注意ください。ラック中の全機器において適正な動作温度が維持されるよう空調を調節してください。

---

## スライドレールの分解

取り付けに備えて、次の手順でスライドレールから固定用ブラケットを取り外してください。

1. スライドレールの梱包を解きます。
2. スライドレール内部の固定用ブラケットの先端にあるスライドレールロック（図 1-2 参照）を確認します。
3. ロックの上下にあるタブを同時に押し込みながら、固定用ブラケットをスライドレールから完全に引き出します。（図 1-2 参照）
4. 固定用ブラケットの側面にある「固定用ブラケットリリースボタン」を図 1-2 に示す方向にスライドさせ、スライドレールから固定用ブラケットを引き抜きます。
5. 以上の分解作業を、取り付けるスライドレールに対してそれぞれ行ってください。

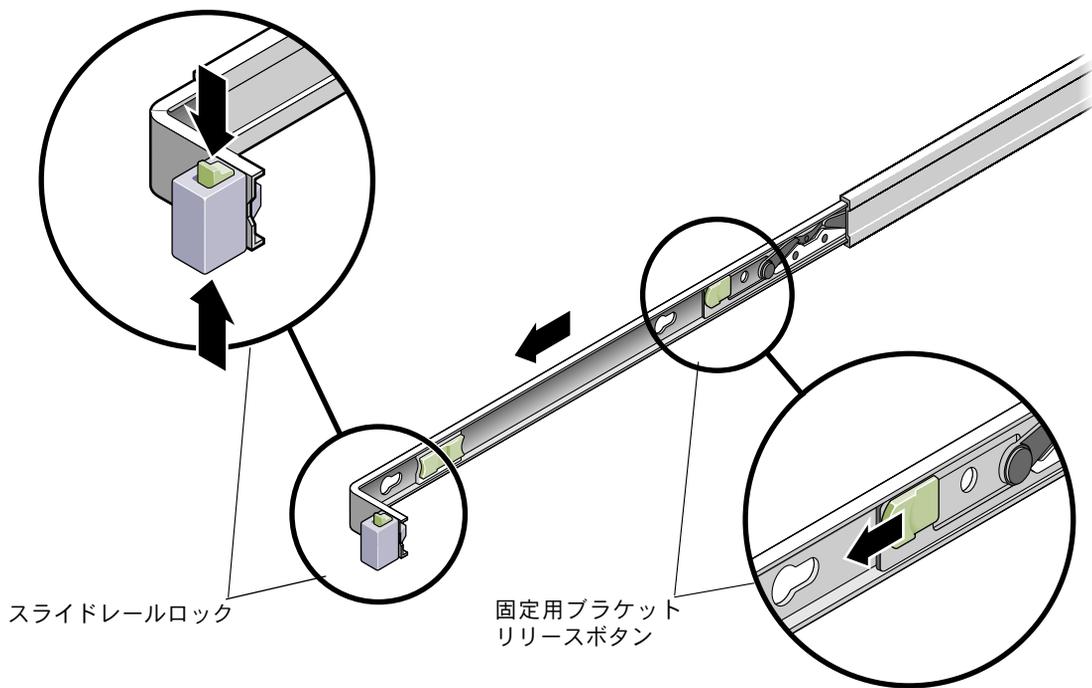


図 1-2 スライドレールの分解

## 固定用ブラケットのサーバーへの取り付け

次の手順で、分解した固定用ブラケットをサーバー筐体に取り付けてください。

1. スライドレールロックがサーバーの前面を向くように固定用ブラケットを配置し、サーバー側面にある3本の爪が固定用ブラケットの開口部と合致することを確認します。

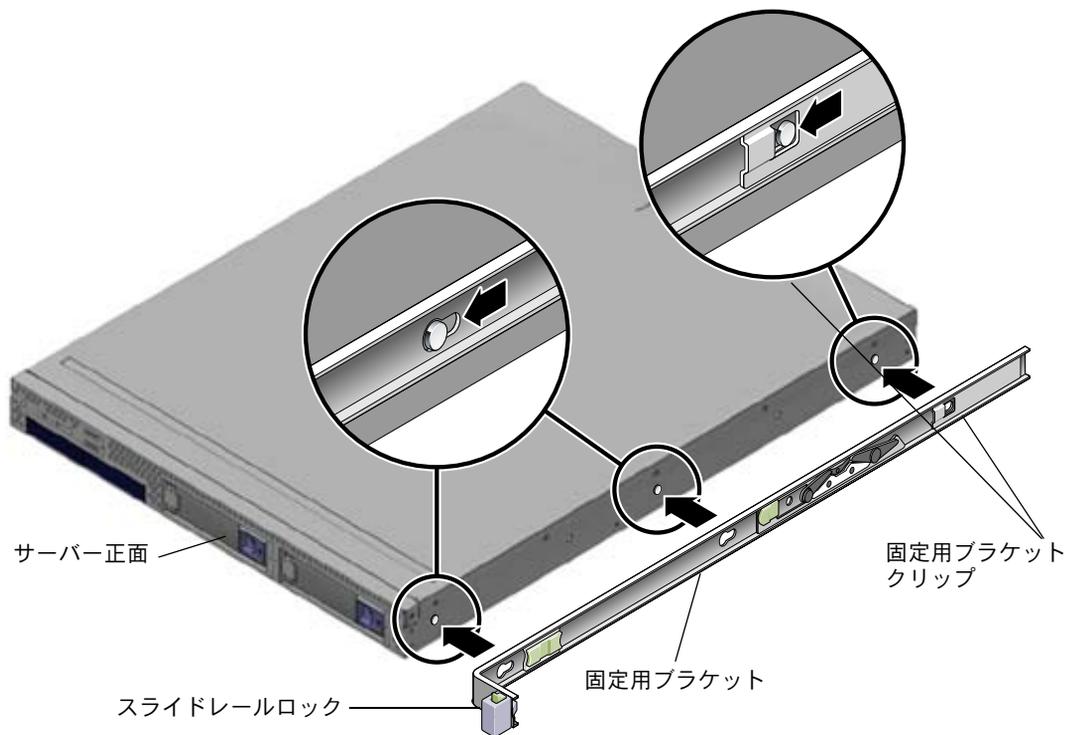


図 1-3 固定用ブラケットとサーバー筐体との位置関係

2. サーバー側面の爪が3本とも固定用ブラケットの開口部から突き出ている状態で、固定用ブラケットをサーバー前面方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせます。(図 1-3 参照)
3. 最後尾の爪がブラケットクリップに正しく接続されていることを確認してください。(図 1-3 参照)
4. 同様の手順で、サーバーの反対側にも固定用ブラケットを取り付けます。

# スライドレールアセンブリのラックへの取り付け

次の手順で、分解したスライドレールアセンブリをラックに取り付けてください。

1. サーバーのマウント位置を決め、両端にあるブラケットが共にラックの支柱の外側に来るようにスライドレールアセンブリを配置します。(図 1-4 参照)
2. スライドレールアセンブリをラックの支柱に固定します。

スライドレールの取り付け方法は、ラックの種類に応じて多少異なります。

  - ラック支柱のネジ穴がねじ切りされているタイプのラックでは、適合するサイズのネジをブラケット側から支柱にねじ込んでスライドレールを固定します。
  - ねじ切りされていないタイプのラックでは、ブラケットと支柱の穴の位置を合わせて適当な大きさのネジを差し込み、支柱の裏側から固定ナットをねじ込んでスライドレールを固定します。

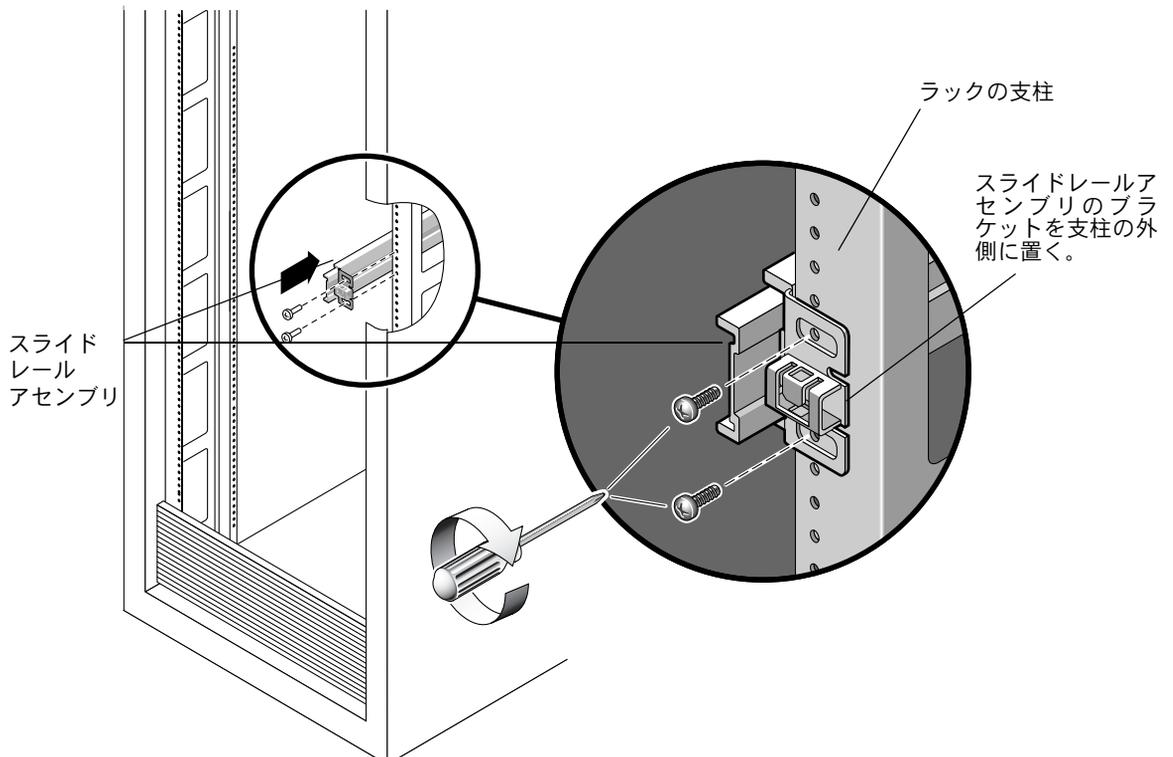


図 1-4 スライドレールアセンブリをラックの支柱に取り付ける

3. もう一方のスライドレールも、ステップ 1 とステップ 2 の手順で取り付けます。

4. ラックの正面から、スペーサーを使ってレール間の距離を微調節します。(図 1-5 参照)

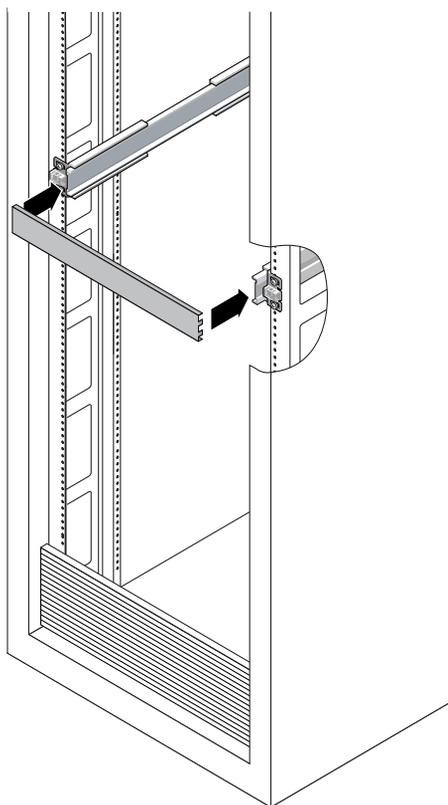


図 1-5 レール幅の調節

5. ブラケットの固定ネジを締めます。
6. スペーサーを外し、レールがラックに固定されていることを確認します。
7. ラックの背面に回り、ステップ 4～ステップ 6 の手順でレール間の距離を微調節します。
8. 転倒防止機構が装備されているラックの場合には、ラック底部から転倒防止用のフットを引き出します。(図 1-6 参照)

---

**ご注意：** 転倒防止機構を持たないラックでは、サーバーの重量でラックが傾き、転倒する危険がありますのでご注意ください。

---

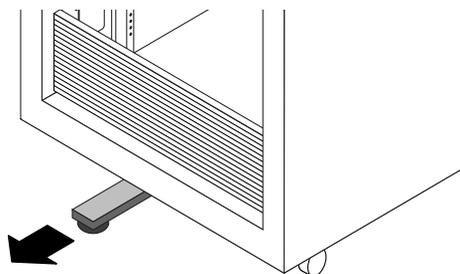


図 1-6 転倒防止用フットを引き出す

## サーバーのスライドレールアセンブリへの取り付け

本項では、固定用ブラケットの付いているサーバーをラックに取り付けたスライドレールアセンブリに組み込む手順について説明します。



---

**ご注意：** サーバーの組み込み作業は2人以上で行ってください。サーバーにはかなりの重量があるため、1人で作業を行うと装置または人体に危害を与える恐れがあります。

---

1. スライドレールアセンブリを一番奥まで押し込みます。
2. サーバーを（2人以上で）持ち上げ、サーバー背面の固定用ブラケットの先端をラック中のスライドレールアセンブリと同じ高さに合わせてみます。（図 1-7 参照）
3. 左右の固定用ブラケットを同時にスライドレールに差し込み、固定用ブラケットの先がスライドレールストッパにあたるまで **30 cm（12 インチ）** ほど押し込みます。

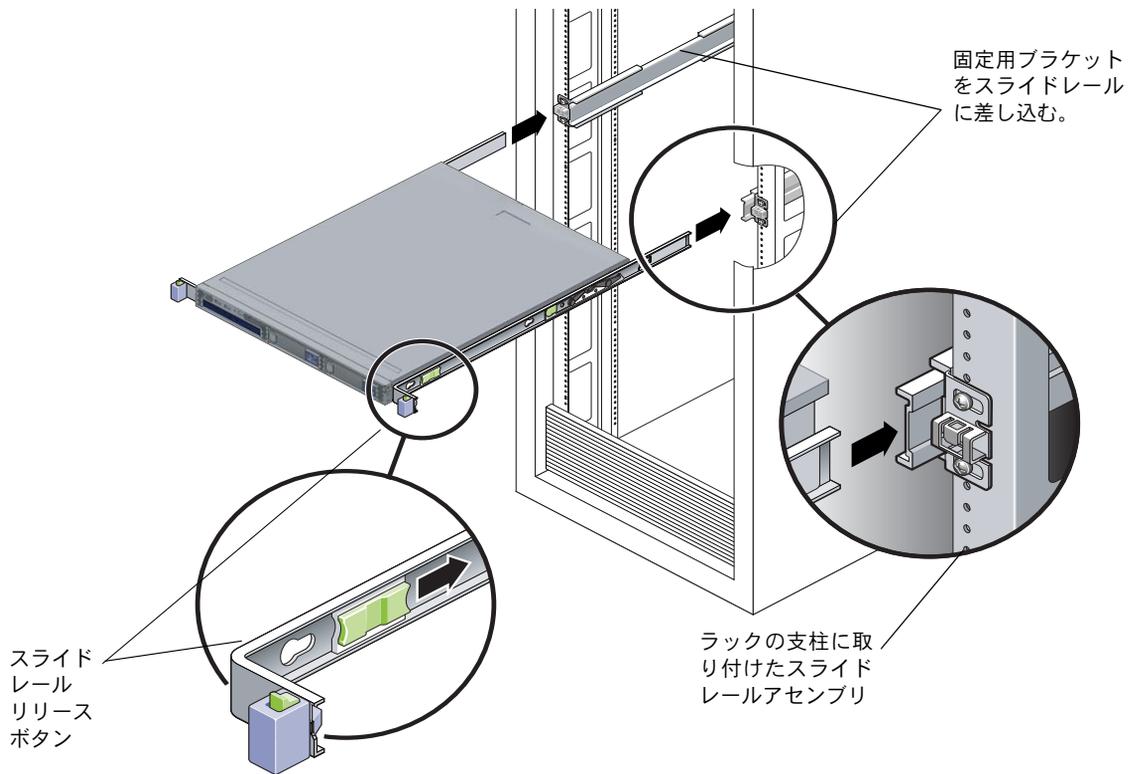


図 1-7 固定用ブラケットの付いたサーバーをスライドレールに組み込む

4. 左右の固定用ブラケットのスライドレールリリースボタンを手前に引きながら、サーバーをラックの奥へ向けて押し込みます。(図 1-7 参照) サーバー正面の固定用ブラケットがスライドレールにロックされてから手を離します。

ロックすると「カチッ」という音がします。



**ご注意：** 次の手順へ進む前に、サーバーがラックに正しくマウントされ、スライドレールロックがブラケットをしっかり保持していることを確認してください。

## CMA の取り付け

オプションのケーブル管理アセンブリ（CMA）を取り付ける場合には、次の手順で作業を行ってください。

1. 製品パッケージから CMA キットを取り出します。
2. CMA キットを持ってラックの背面へ回り、サーバーの背後に十分な取付け空間があることを確認します。

---

**ご参考：** 以下の説明では、作業員がラックの背後に立ってサーバー背面に正対していることを前提として「右」「左」を指示します。

---

3. キットから CMA レールエクステンションを取り出し、左側のスライドレールに差し込んで「カチッ」という音がするまで押し込みます。（図 1-8 参照）

CMA レールエクステンションは、CMA キットに粘着テープで添付されている場合があります。

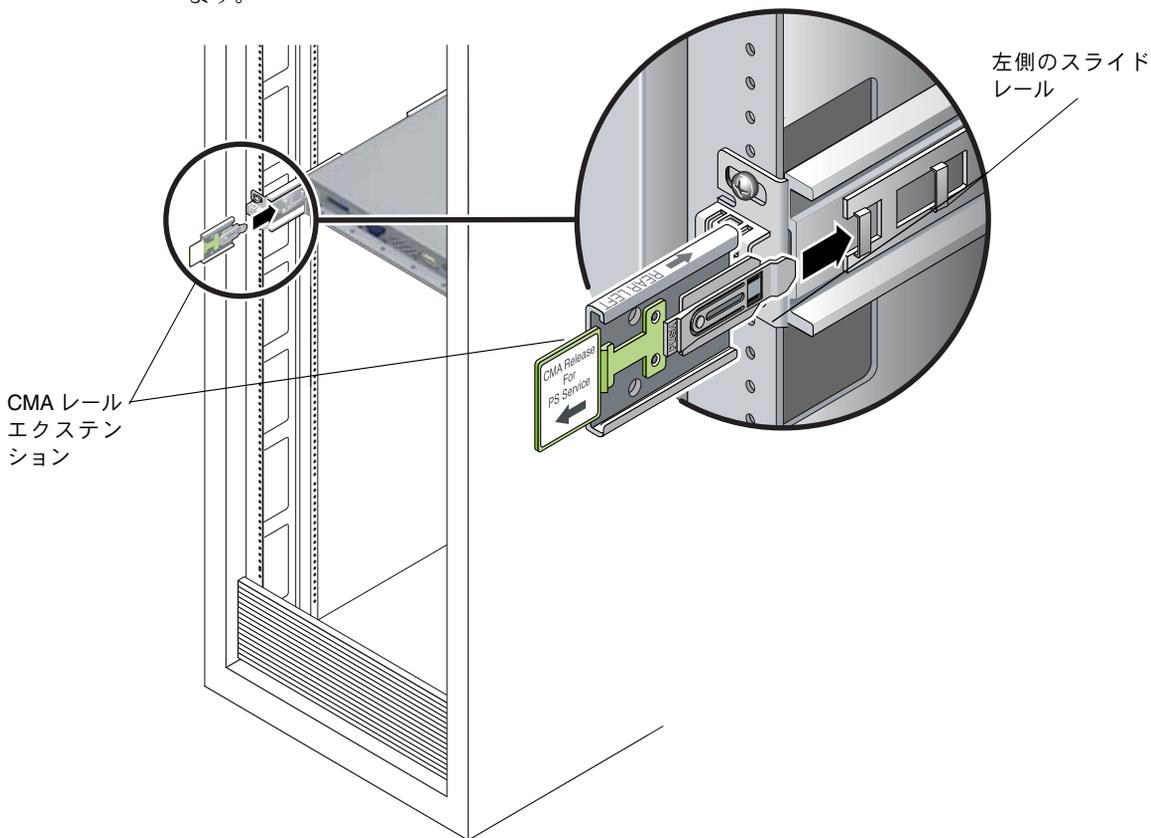


図 1-8 左側のスライドレールに CMA レールエクステンションを挿入する

4. CMA レールエクステンションを固定位置まで押し込みます (図 1-9 参照)。

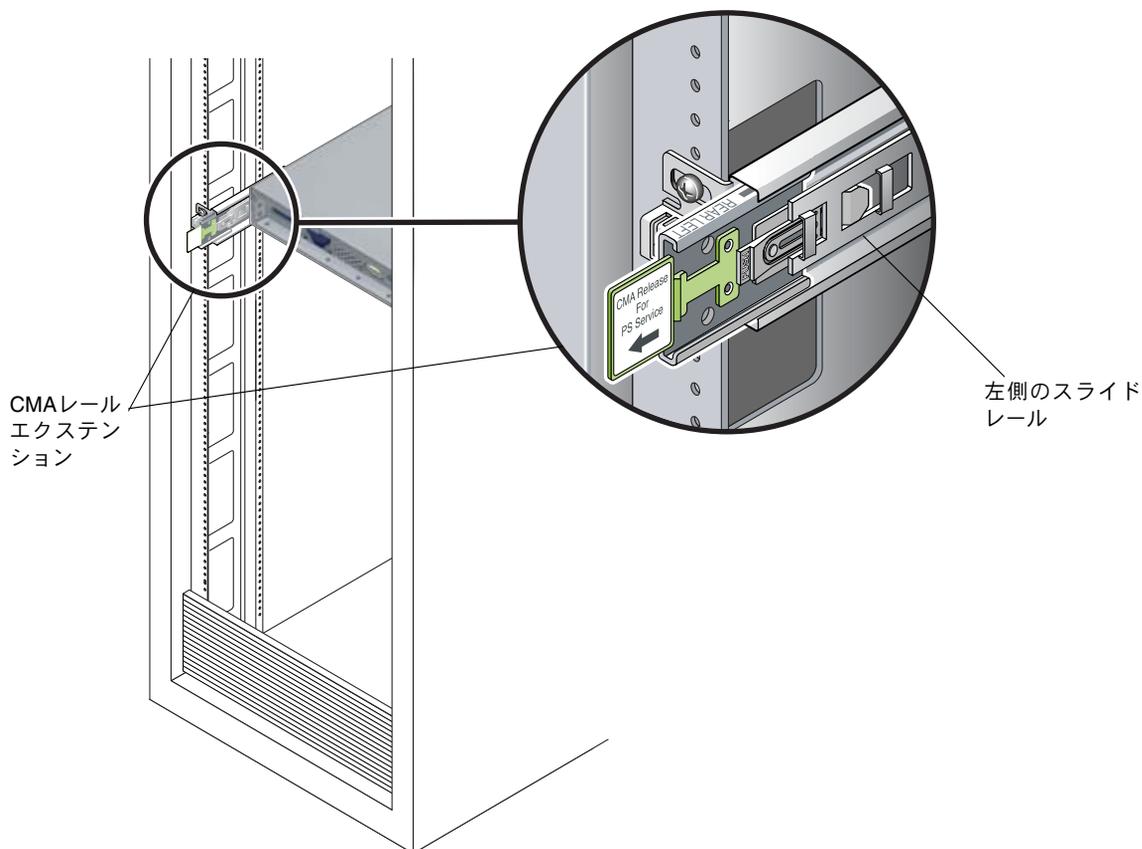


図 1-9 左側のスライドレールに正しく装着された状態の CMA レールエクステンション

---

**ご注意：** 以下の作業ステップは、CMA を手で保持しながら行ってください。CMA が 3 点で固定されるまでは、どのコネクタのヒンジにも重量負荷がかからないようご注意ください。

---

5. CMA の固定用ブラケットコネクタを右側のスライドレールに差し込み、「カチッ」と音がして固定されるまで押し込みます。(図 1-10 参照)

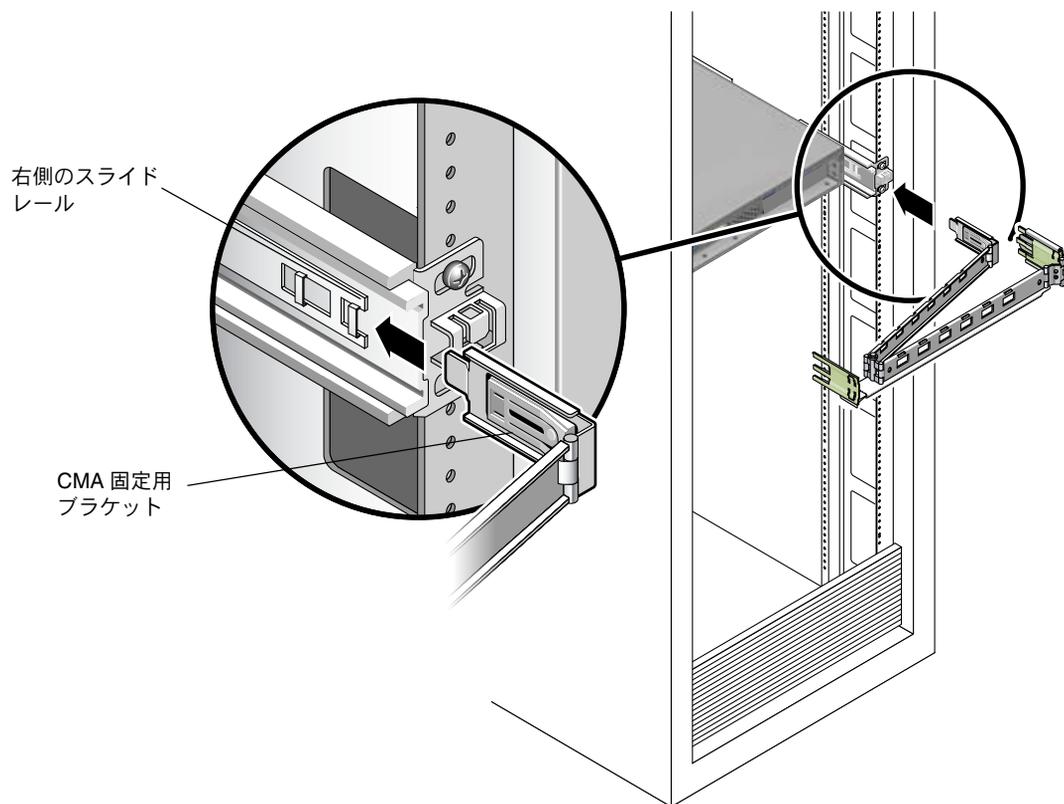


図 1-10 右側のスライドレールの後ろに CMA 固定用ブラケットを挿入する

6. 右側のCMAのライドレールコネクタを右側のライドレールアセンブリに差し込み、「カチッ」と音がして固定されるまで押し込みます。(図 1-11 参照)

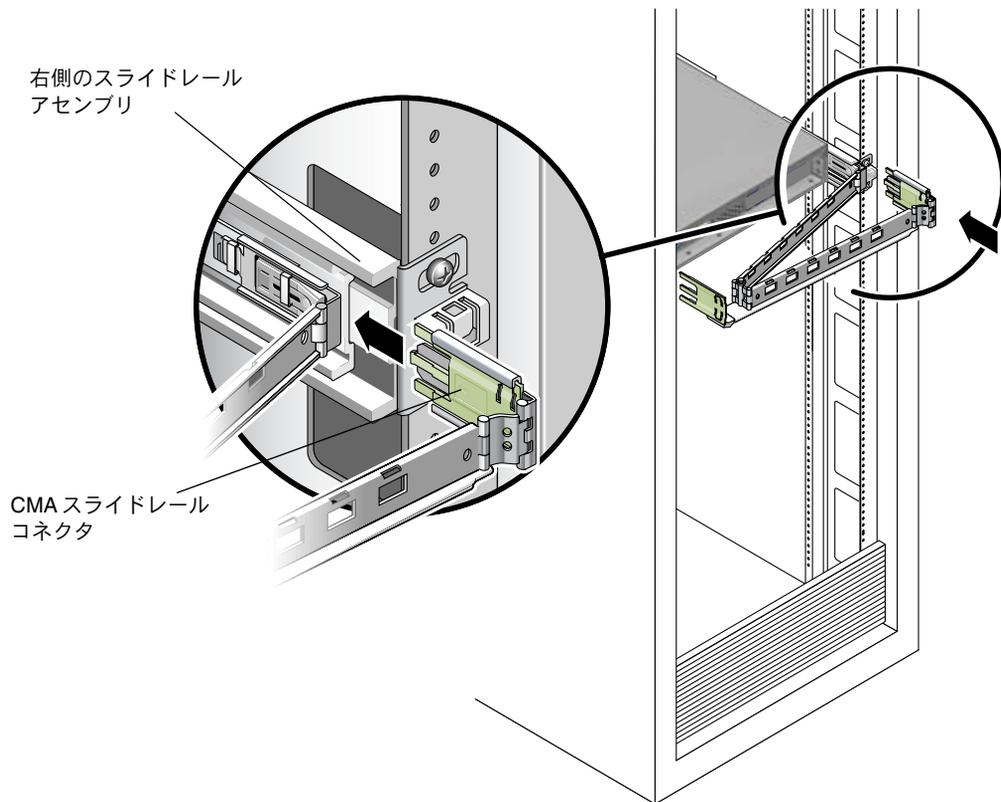


図 1-11 右側のライドレールアセンブリの後ろにCMA スライドレールコネクタを挿入する

7. 左側のCMAのライドレールコネクタを左側のライドレールアセンブリに差し込み、「カチッ」と音がして固定されるまで押し込みます。(図 1-12 参照)

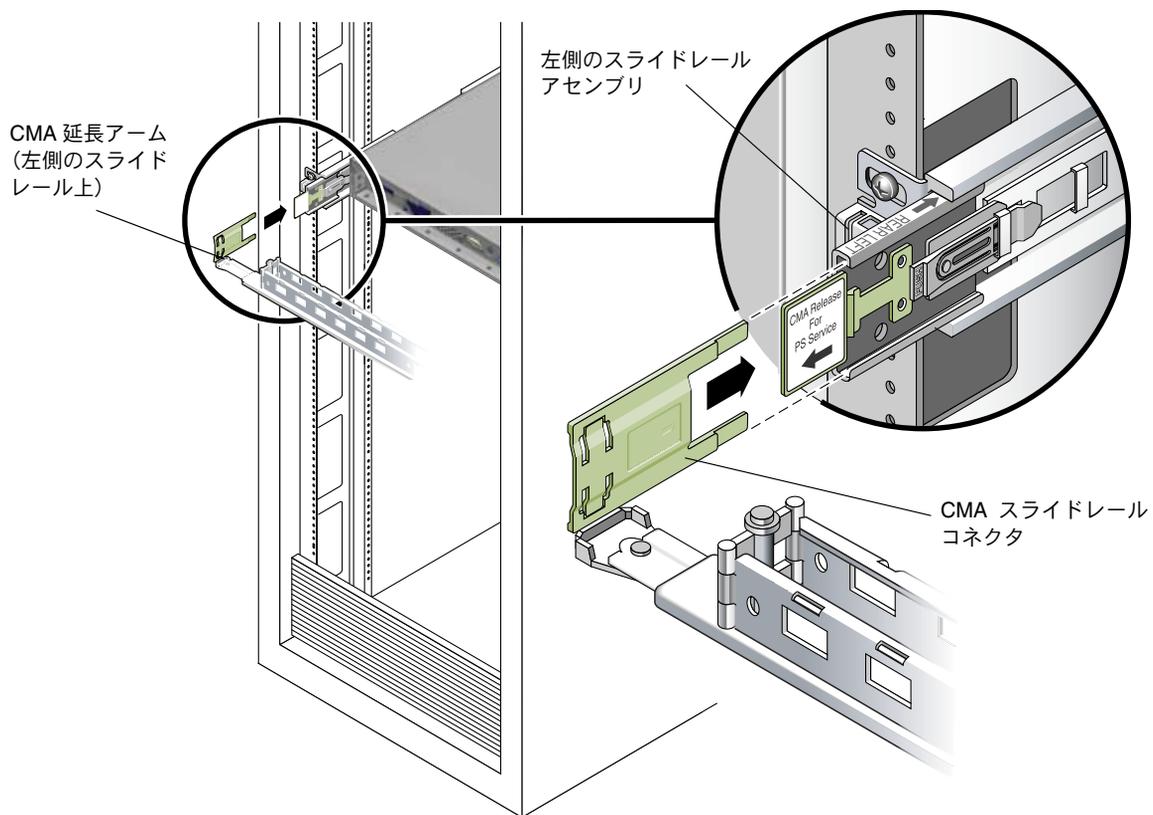


図 1-12 左側のライドレールアセンブリの後ろに CMA スライドレールコネクタを挿入する

8. CMA の適切な固定穴にケーブルハンガーを配置し、所定の位置に「カチッ」とはめます。  
(図 1-13 参照)

最高の結果を得るには、CMA の背面側に均等な間隔で 3 個のハンガーを、サーバーに面する側に 3 個配置します。

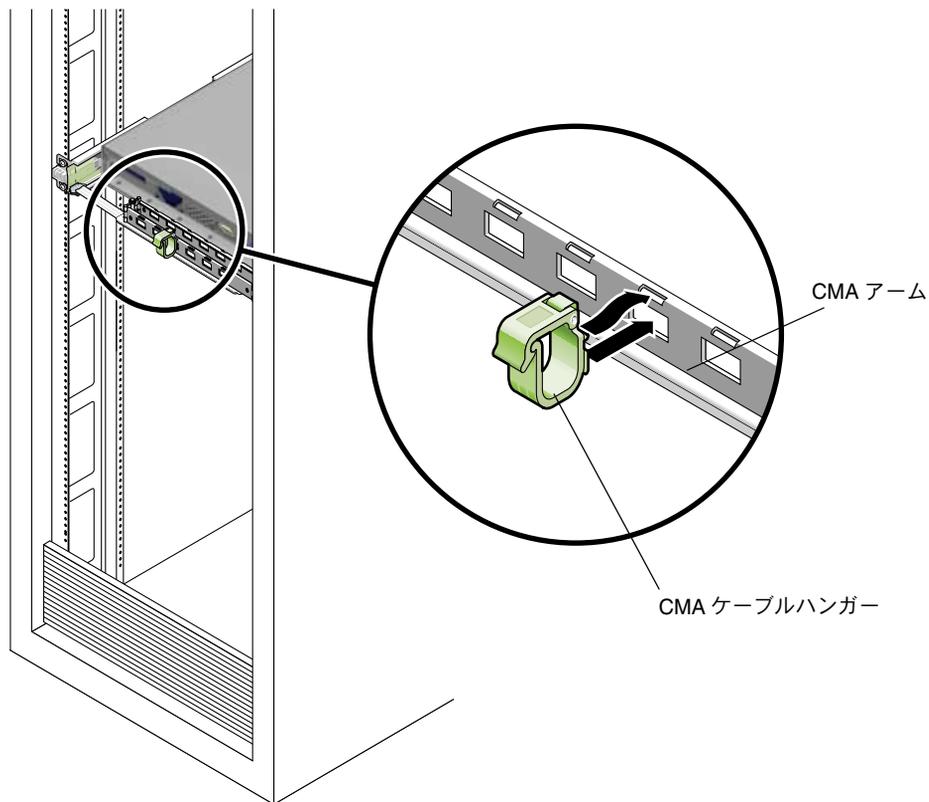


図 1-13 CMA ケーブルハンガーの取り付け

## ケーブルの接続と配線

次の手順に従って、ケーブルをサーバーに接続し、CMA を通して配線します。

1. 必要に応じて、ケーブルをサーバーに接続します。  
サーバー背面パネルのポートの図とケーブルをサーバーに接続する手順については、「サーバーのケーブル配線」(17 ページ) をご参照ください。
2. CMA ケーブルハンガーを通してケーブルを配線します。

## スライドレールと CMA の動作確認

この手順に従って、スライドレールと CMA が正しく動作していることを確認します。

---

**ご参考：** この作業は 2 人で行うと容易にできます一人がサーバーをラックから出し入れし、もう一人がケーブルと CMA を観察します。

---

1. スライドレールがストッパに当たるまで、サーバーをラックからゆっくりと引っ張り出します。
2. 接続されているケーブルが、引っかかったり、ねじれたりしていないか点検します。
3. CMA がスライドレールから完全に伸びていることを確認します。

4. サーバーをラックに押し戻します。

サーバーが完全に伸びている場合は、2 セットのスライドレールストッパを開放して、サーバーをラックに戻す必要があります。

- a. 最初のセットのストッパはレバーで、各スライドレールの内側、サーバーの背面パネルのすぐ後にあります。これらのレバーには「PUSH」というラベルが付いています。両方のレバーを同時に押して、サーバーをラックの方にスライドさせます。

サーバーは、約 15 インチ (38 cm) 移動して止まります。

次の作業を続ける前に、ケーブルと CMA が、引っかかることなく引き込めることを確認します。

- b. 第 2 セットのストッパはスライドレールリリースボタンで、各固定ブラケットの前面近くにあります。図 1-7 をご参照ください。両方のスライドレールリリースボタンを同時に押すか、引っ張って、両側のスライドレールのロックがかかるまで、サーバーをラックに完全に押し込みます。
5. 必要に応じて、ケーブルハンガーと CMA を調整します。
  6. 「サーバーのケーブル配線」(17 ページ) を続けます。

---

## サーバーのケーブル配線

サーバーと外部デバイスを次の順序で接続します (図 1-14 参照)。

1. サーバーの電源コードを接地されているコンセントに差し込みます。
2. キーボードとマウスを正面または背面パネルにある USB コネクタに接続します。
3. モニタケーブルをオンボードのビデオコネクタに接続します。

---

**ご参考：** キーボード、マウス、ビデオは、ヘッドレス操作をサポートするオペレーティングシステム用のオプションです。

---

- イーサネットケーブルをサーバーのギガビットコネクタに接続します。  
サーバーを相互接続し、さらに LAN に接続する方法については、図 1-15 をご参照ください。
- その他の外部デバイスをサーバーの残りのコネクタに接続します。

図 1-14 に Sun Fire X2100 サーバーの背面パネルを示します。

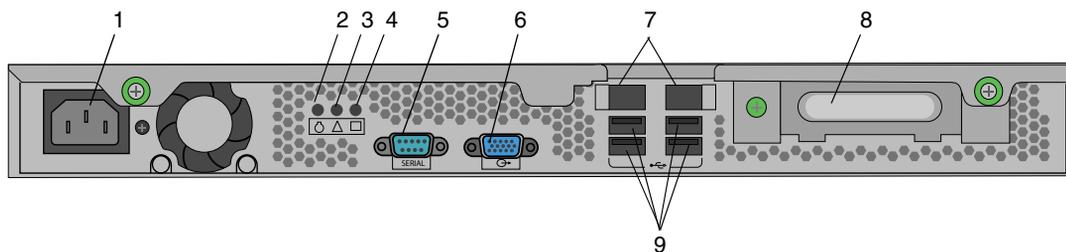


図 1-14 背面パネル

表 1-1 背面パネル

ラベル	コネクタ/スロット	ラベル	コネクタ/スロット
1	電源コネクタ	6	オンボード HD15 ビデオコネクタ
2	位置特定 LED	7	イーサネットコネクタ (2 個)
3	サービスインジケータ LED	8	PCI EXPRESS x16 グラフィック スロット
4	電源 LED	9	USB コネクタ (4 個)
5	シリアルコネクタ		

## サーバーの相互接続

図 1-15 に、プラットフォームイーサネット（LAN）コネクタを使って複数のサーバーを接続する方法を示します。

サービスプロセッサがインストールされている場合は、ネットワークインターフェイスには LAN-1 だけで充分です。オプションのサービスプロセッサ（SP）カードがインストールされている場合は、リモートサーバー管理のために LAN-2 を使う必要があります。

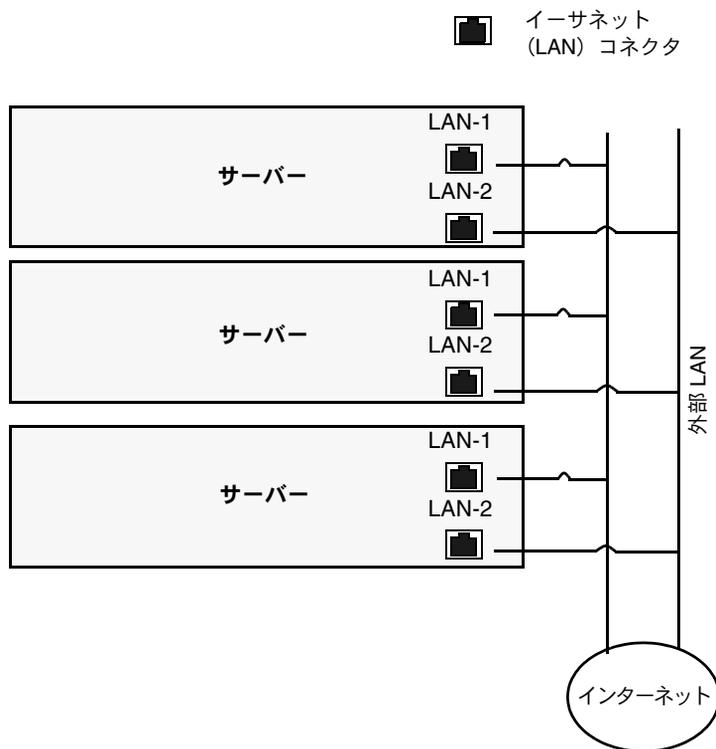


図 1-15 サーバーの相互接続

# サーバーの電源投入

**ヒント：** メモリ DIMM、PCI カード、光磁気 (MO) ドライブまたはハードドライブなどのオプションの内部コンポーネントを追加する場合は、サーバーの電源を入れる前に取り付けてください。オプションのコンポーネントを取り付けない場合は、この時点でサーバーの電源を入れる準備が整っています。

1. 接地 AC 電源コードが、サーバー背面にある AC 電源コネクタと AC 電源コンセントに差し込まれていることを確認します。図 1-14 をご参照ください。
2. 正面パネルにあるサーバーの電源ボタンを押します (図 1-16 参照)。
3. 数秒待つてから、電源ボタンの隣にある電源 LED の点灯を確認します。  
電源 LED は、サーバーの内部起動処理が開始した時点で点灯します。電源 LED の位置については、図 1-16 をご参照ください。
4. (オプション) サーバーの正面にある位置特定ボタンを押して、サーバーの正面および背面にある位置特定 LED を点灯させます。  
位置特定 LED は、ラック構造内で特定のサーバーを見つけたいときに役立ちます。
5. 「ソフトウェアのインストール」(23 ページ) または 「インストール済みソフトウェアの設定」(43 ページ) の指示に従って、ソフトウェアのセットアップに進みます。

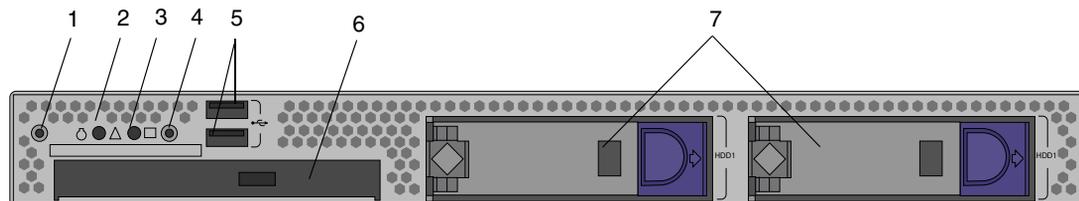


図 1-16 正面パネル

表 1-2 正面パネル

ラベル	ボタン / LED / ポート	ラベル	ボタン / LED / ポート
1	位置特定ボタン / LED	5	USB ポート (2 個)
2	状況 LED	6	DVD ドライブ (オプション)
3	電源 LED	7	ハードディスクドライブ (オプション 0、1、2)
4	電源ボタン		

---

# サーバーの電源切断

1. データを保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じます。
2. サーバーの電源を切る前に、次の電源切断オプションをすべてお読みください。
  - オペレーティングシステムのシャットダウンコマンドまたはメニューオプションを使ってサーバーの電源を切ります。

ほとんどの場合、これによりオペレーティングシステムが終了し、サーバーの電源が自動的に落ちます。
  - オペレーティングシステムのコマンドでサーバーの電源が切れない場合、またはこのコマンドが利用できない場合は、電源ボタン（位置については図 1-16 を参照）を押します。

これにより、適切な順序でオペレーティングシステムのシャットダウンが開始され、サーバーの電源が切れます。

---

**ご注意：** データの損失を防ぐため、可能な限り上記の 2 つのオプションをお使いください。

---

- 上のオプションでサーバーの電源が切れない場合は、電源ボタンを約 4 秒間、押し続けてください。図 1-16 をご参照ください。

この方法では、サーバーへの電源は遮断されますが、適切な順序でのシステムのシャットダウンは行われません。この方法では、データを失う可能性があります。

上記の手順でサーバーの電源が切れない場合の対応策については、『*Sun Fire X2100* サーバーユーザガイド、819-4598-10』の「トラブルシューティング」をご参照ください。

---

**ご参考：** サーバーを再度起動する場合には、サーバーの電源が切れたあと 4 秒以上待ってから電源を再投入してください。

---



## ソフトウェアのインストール

---

本章は次のセクションから構成されます。

- 「インストールの準備」 (23 ページ)
- 「オペレーティングシステムのインストール」 (26 ページ)
- 「up2date ユーティリティの実行」 (27 ページ)
- 「ドライバのインストールと診断パーティションのマウント」 (28 ページ)

本製品には出荷時に Solaris 10 オペレーティングシステムがインストールされていますが、別のオペレーティングシステムをインストールしたい場合に本章の手順をご参照ください。

Sun Fire X2100 Server Supplemental CD には診断ソフトウェアも収録されています。診断ソフトウェアの使用方法については、『*Sun Fire X2100 サーバーユーザガイド*, 819-4598-10』をご参照ください。

---

### インストールの準備

図 2-1 に、サーバーへオペレーティングシステムをインストールするための作業手順をフロー図で示します。

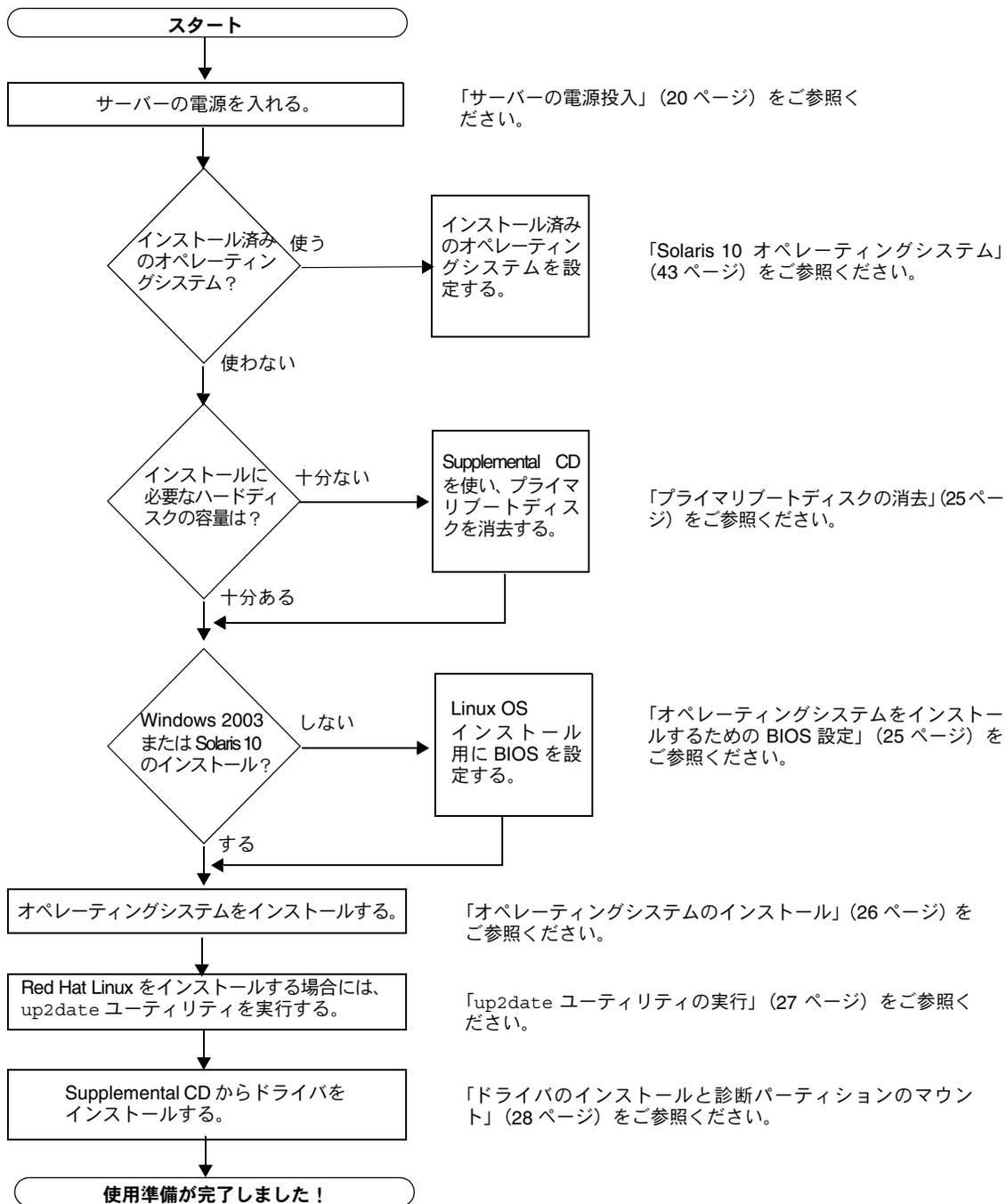


図 2-1 インストール作業図

## プライマリブートディスクの消去

オペレーティングシステムのインストールに必要な容量がブートパーティションにない場合は、Sun Fire X2100 Server Supplemental CD のメインメニューにある [Erase Primary Boot Hard Disk] オプションを使うと、インストール済みのオペレーティングシステムを消去して、新しいインストールのための容量を確保できます。



---

**ご注意：** Supplemental CD の [Erase Primary Boot Hard Disk] オプションを選ぶと、診断パーティションを除く、ハードドライブ上のすべてのパーティションが消去されます。すべてのユーザデータが失われるため、この操作を開始する前に、ハードディスクの全データをバックアップしてください。

---

プライマリブートハードディスクの消去は、次の手順で行います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. Supplemental CD をサーバーの DVD トレイに挿入します。
3. メインメニューが表示されたら、Supplemental CD のメインメニューから次のオプションを選びます。
  3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選ぶと、プライマリハードドライブ上に現在あるすべてのパーティション（診断パーティションを除く）が消去されます。診断パーティションだけは消去されずにそのまま残ります。

## オペレーティングシステムをインストールするための BIOS 設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、Sun Fire X2100 サーバーの BIOS がインストールするオペレーティングシステム向けに設定されていることを確認する必要があります。インストールするオペレーティングシステムの種類に該当するセクションを参照してください。

### Windows 2003 または Solaris 10 をインストールする場合の BIOS 設定

[Installed O/S] オプションのデフォルト設定は [Others] です。このデフォルト設定が変更されていない限り、Windows 2003 または Solaris 10 オペレーティングシステムのために BIOS 設定を変更する必要はありません。

[BIOS Installed O/S] オプションのデフォルト設定が変更されている場合には、Windows 2003 または Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールする前に次の操作を実施してください。

1. サーバーの電源をオンにし、Sun ログ画面で F2 キーを押して [BIOS Setup] メニューを開きます。
2. [Advanced BIOS Features] メニューを選びます。
3. [Installed O/S] オプションを [Others] に変更します。
4. F10 キーを押して BIOS の変更内容を保存し、メニューを閉じます。

## Linux オペレーティングシステムをインストールする場合の BIOS 設定

Linux オペレーティングシステム (RedHat Enterprise Linux 3、4、および SUSE Linux Enterprise System) をインストールする場合には、次の操作を実施してください。

1. サーバーの電源をオンにし、Sun ログ画面で F2 キーを押して [BIOS Setup] メニューを開きます。
2. [Advanced BIOS Features] メニューを選びます。
3. [Installed O/S] オプションを [Linux] に変更します。
4. F10 キーを押して BIOS の変更内容を保存し、メニューを閉じます。

---

# オペレーティングシステムのインストール

もしお手元の Sun Fire X2100 サーバーにオペレーティングシステムがあらかじめインストールされていない場合には、何らかのオペレーティングシステムをインストールする必要があります。

本書の出版時点では、次のオペレーティングシステムがサポートされています。

- Solaris 10 オペレーティングシステム (HW 1)、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) 付
- Red Hat Enterprise Linux 3、アップデート 5、32 ビットおよび 64 ビット (ES および AS)
- Red Hat Enterprise Linux 4、アップデート 1、32 ビットおよび 64 ビット (ES および AS)
- SUSE Linux Enterprise System 9、(SP 2) 32 ビットおよび 64 ビット (SUSE 認定)
- Windows 2003 (SP 1) および x64 標準サーバー (WHQL 認定)

これらのオペレーティングシステムのインストール方法は、それぞれのオペレーティングシステムソフトウェアに付属しているメディアセットに記載されています。

Sun Fire X2100 サーバー上で Red Hat Enterprise Linux 3、4、または SUSE 9 を走らせた場合は、次のウェブサイトから入手できます。

<http://www.sun.com/software/linux/index.html>

他のオペレーティングシステムについても、Sun Fire X2100 サーバーの初回リリース後にサポートを開始する予定です。サポートされているオペレーティングシステムの最新版のリストは次の URL に掲載されています：

<http://www.sun.com/x2100/>

---

**ご参考：** Sun Fire X2100 サーバーには、診断パーティションがあらかじめインストールされています。削除した診断パーティションを Sun Fire X2100 Server Supplemental CD から再インストールする方法については、『*Sun Fire X2100 サーバーユーザガイド*、819-4598-10』をご参照ください。

---

## up2date ユーティリティの実行

Red Hat Enterprise Linux をインストールする場合、オペレーティングシステムのインストール完了後、Sun Fire X2100 Server Supplemental CD からビデオドライバをインストールする以前に、up2date ユーティリティを実行してください。

---

**ご参考：** NVIDIA ドライバを先にインストールしてしまうと、up2date によりカーネルが更新されるため、事後に NVIDIA ドライバを再インストールする必要が生じます。

---

---

# ドライバのインストールと診断パーティションのマウント

オペレーティングシステムをインストールした後、そのオペレーティングシステムに対応するドライバをネットワーク経由（または Sun Fire X2100 Server Supplemental CD にあるインストールスクリプトを実行）でインストールしてください。

このサーバーに付属している Sun Fire X2100 Server Supplemental CD には、以下のソフトウェアが収録されています。Supplemental CD は、次のサイトからもダウンロードできます。

<http://www.sun.com/x2100/>

また、サポートされているすべてのオペレーティングシステムにおいて、新しい診断パーティションを作成した場合にも、インストールスクリプトを使い、作成した診断パーティションをマウントする必要があります。（診断パーティションの作成方法については、『Sun Fire X2100 サーバーユーザガイド, 819-4598-10』をご参照ください。）Windows 2003 サーバーには診断パーティションはマウントできません。

本セクションでは、次の項目について説明します。

- 「ドライバをネットワーク経由でインストールする」(28 ページ)
- 「Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を使ったドライバのインストール」(35 ページ)

## ドライバをネットワーク経由でインストールする

ここでは、ネットワークを介してドライバをインストールする手順について説明します。まず、ドライバを収録するシステムを設定し、次に Sun Fire X2100 サーバーをそのシステムへ接続してドライバをインストールします。

サーバーに CD または DVD ドライブが付属していない場合には、次の手順で必要なドライバをインストールしてください。

本セクションでは、次の項目について説明します。

- 「共有ドライバディレクトリの作成」(29 ページ)
- 「Supplemental CD からドライバをコピー」(31 ページ)
- 「ドライバをターゲットの Sun Fire X2100 サーバーにインストール」(33 ページ)

## 共有ドライブディレクトリの作成

このセクションでは、Sun Fire X2100 と同じサブネットに接続されている別のサーバー上で共有フォルダを作成する手順について説明します。ホストシステムの種類に応じた手順を選んで行ってください。

- 「Solaris 上で共有ドライブディレクトリを作成する」 (29 ページ)
- 「Linux 上で共有ドライブディレクトリを作成する」 (30 ページ)
- 「Windows 上で共有ドライブディレクトリを作成する」 (31 ページ)

---

**ご参考：** このセクション中では、共有ドライブディレクトリのインストール先システムをホストと呼びます。

---

### *Solaris* 上で共有ドライブディレクトリを作成する

1. ルート（スーパーユーザ）としてホストにログインします。
2. 次のコマンドを投入して、**drivers** という名前のディレクトリを作ります。

```
# mkdir /export/home/drivers
```

3. どのユーザからでも見えるように **drivers** ディレクトリのアクセス権限を設定します。

```
# chmod -R 555 /drivers
```

4. **/etc/dfs** ディレクトリへ移動します。

```
# cd /etc/dfs
```

5. テキストエディタで **dfstab** ファイルを開きます。

```
# vi dfstab
```

6. 次の行を **dfstab** ファイルに追加します：

```
share -F nfs /export/home/drivers
```

7. **dfstab** ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。

8. コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
# shareall
```

9. これにより、`/export/home/drivers` ディレクトリはネットワーク上で `/net/ ホスト /export/home/drivers` として認識されるようになります。
10. 「Supplemental CD からドライバをコピー」(31 ページ) に示すドライバをコピーします。

### *Linux* 上で共有ドライバディレクトリを作成する

1. ルート (スーパーユーザ) としてホストシステムにログインします。  
ここで、ホストはドライバを収録しておくシステムの名前です。
2. 次のコマンドを投入して、`drivers` という名前のディレクトリを作ります。

```
# mkdir /drivers
```

3. どのユーザからでも見えるように `drivers` ディレクトリのアクセス権限を設定します。

```
# chmod -R 555 /drivers
```

4. `/etc/dfs` ディレクトリへ移動します。

```
# cd /etc/dfs
```

5. テキストエディタで `dfstab` ファイルを開きます。

```
# vi dfstab
```

6. 次の行を `dfstab` ファイルの末尾に追加します。

```
share -F nfs -o ro, /drivers
```

7. `dfstab` ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。

8. プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# shareall
```

これにより、/drivers ディレクトリはネットワーク上で /net/ ホスト /drivers として認識されるようになります。

9. 「Supplemental CD からドライバをコピー」(31 ページ) に示すドライバをコピーします。

### *Windows 上で共有ドライバディレクトリを作成する*

1. **Administrator** (管理者ユーザ) としてホスト にログインします。
2. エクスプローラを使い、C:\drivers という名前のディレクトリを作ります。
3. エクスプローラ上で C:\drivers を右クリックします。
4. 表示されるメニューから [共有とセキュリティ] を選びます。
5. [アクセス許可] ボタンをクリックします。
6. [フルコントロール] オプションから [アクセス許可] を選びます。
7. [適用] ボタンをクリックします。
8. [OK] ボタンをクリックします。
9. ドライバの [プロパティ] ウィンドウにある [適用] ボタンをクリックします。
10. [OK] ボタンをクリックします。
11. これにより、C:\drivers ディレクトリはネットワーク上で \\ ホスト \drivers として認識されるようになります。
12. 「Supplemental CD からドライバをコピー」(31 ページ) に示すドライバをコピーします。

### Supplemental CD からドライバをコピー

1. Supplemental CD をホストの CD/DVD ドライブに挿入します。

2. 適切なオペレーティングシステムのコマンドを使って、「Supplemental CD からドライバをコピー」(31 ページ) に作成されたシェアフォルダにドライバのディレクトリをコピーします。

- Solaris システム :

```
# cp -r /cdrom/cdrom0/drivers/* /export/home/drivers
```

- Linux システム :

```
# cp -r cdrom-mount-point/drivers/* /drivers
```

ここで、*cdrom-mount-point* は、Linux ディストリビューションのマウントポイントです。

- Windows システム (D: が CD/DVD ドライブと仮定) :

```
> copy D:\*.* C:\drivers
```

3. Sun Fire X2100 システムにスーパーユーザ (Linux と Solaris) または管理者 (Windows) としてログインします。

4. 適切な OS に適用されるコマンドを使って、Sun Fire X2100 を「共有ドライバディレクトリの作成」(29 ページ) に作成されたネットワークシェアディレクトリに接続します。

- Solaris システム :

```
# cd /net/ ホスト /drivers
```

- Linux システム :

```
# cd /net/ ホスト /drivers
```

- Windows システム :

- a. エクスプローラを開きます。
- b. プルダウンメニューから [ツール] を選びます。
- c. [ネットワークドライブの割り当て] を選びます。
- d. \\ ホスト \drivers と入力します。

5. 「ドライバをターゲットの Sun Fire X2100 サーバーにインストール」(33 ページ) に従ってドライバをインストールします。

## ドライバをターゲットの Sun Fire X2100 サーバーにインストール

適切なオペレーティングシステムの手順に従って、ドライバをターゲットの Sun Fire X2100 サーバーにインストールします。

- 「ドライバをターゲットの Solaris システムにインストール」 (33 ページ)
- 「ドライバをターゲットの Linux システムにインストール」 (33 ページ)
- 「ドライバをターゲットの Windows システムにインストール」 (34 ページ)

### ドライバをターゲットの Solaris システムにインストール

1. スーパーユーザとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、ドライバをインストールします。

```
# /net/ ホスト /export/home/drivers/solx86/install.sh
```

ネットワークドライバとサウンドドライバがインストールされます。

インストールが完了すると、変更を有効にするためにシステムを再起動するよう求めるプロンプトが表示されます。

3. サーバーを再起動します。
4. Xserver の選択肢が表示されたら、デフォルト設定である Xorg を選びます。
5. ネットワーク情報を求めるプロンプトが表示されたら、サーバーへアクセスするためのネットワーク情報を入力します。

### ドライバをターゲットの Linux システムにインストール

1. スーパーユーザとしてログインします。
2. コマンドラインで次のコマンドを入力します。

```
# init 3
```

3. 適切なコマンドを入力して、ドライバをインストールします。
  - Red Hat Linux システム :

```
# /net/ ホスト /drivers/linux/red_hat/install.sh
```

■ SUSE システム :

```
# /net/ ホスト /drivers/linux/suse/install.sh
```

ドライバが正しくインストールされない場合は、次の 2 通りの代替方法があります。

- Red Hat Linux オペレーティングシステムをお使いの場合は、システムに現在インストールされているドライバを使用できます。これらのドライバは、最新のものではない可能性がありますが、正しく機能するはずです。
- ドライバは、USB ポートに接続されている CD-ROM からインストールできます。

### ドライバをターゲットの Windows システムにインストール

---

**ご参考：** この手順を実行する前に、「Windows 2003 オペレーティングシステム用ドライバを CD からインストール」(37 ページ) の指示をお読みください。チップセットおよびディスプレイドライバをインストールする前に、その他のドライバをシステムにインストールする必要がある場合があります。

---

Windows チップセットおよびディスプレイドライバだけをインストールする場合は、次の手順に従ってください。

1. \\ ホスト \drivers\windows を参照し、ドライバを入手します。
2. **Device Manager** からドライバをインストールします。

# Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を使った ドライバのインストール

サーバーにオンボードの DVD ドライブが搭載されている場合は、Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を使って直接ドライバをインストールできます。

本セクションでは、次の項目について説明します。

- 「Linux オペレーティングシステム用ドライバを CD からインストール」(35 ページ)
- 「Solaris 10 OS オペレーティングシステム用ドライバを CD からインストール」(36 ページ)
- 「Windows 2003 オペレーティングシステム用ドライバを CD からインストール」(37 ページ)
- 「Windows 2003 ドライバを CD からインストール」(41 ページ)

## Linux オペレーティングシステム用ドライバを CD からインストール

Linux オペレーティングシステムの初期インストールが完了したら、次の手順でビデオドライバをインストールし、診断パーティションをマウントします。

1. Sun Fire X2100 サーバーにスーパーユーザとしてログインします。
2. Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を DVD ドライブに挿入し、次のようにタイプします。

```
cd /mountpoint/drivers/linux/operating_system
```

ここで、*/mountpoint* は、CD がマウントされているディレクトリ、*operating\_system* は、サーバーにインストールされている Linux の種類です。

- CD が自動マウントされなかった場合、このディレクトリは存在しません。その場合、ステップ 3 およびステップ 4 の操作を行い、手動で CD をマウントしてこのディレクトリへ移動する必要があります。
  - *operating\_system* ディレクトリへ移動できた場合には、ステップ 5 へ進んでください。
3. CD がオートマウントされない場合、ターミナルウィンドウを開き、次のコマンドをタイプして CD をマウントします。

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mountpoint
```

*/mountpoint* には、OS とオプティカルドライブの種類に応じたマウント位置を指定してください。

例：

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mnt/dvdrom
```

4. `/mountpoint/drivers/linux/operating_system` ディレクトリへ移動します。

ここで、`/mountpoint` は CD がマウントされているディレクトリ、`operating_system` はサーバーにインストールされている Linux の種類です。

例：

```
# cd /mnt/dvdrom/drivers/linux/red_hat
```

5. 次のコマンドを使い、インストールスクリプトを実行します。

```
# sh install.sh
```

X サーバが起動していると、このスクリプトは実行されません。

- スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、ステップ 6 へ進んでください。
  - スクリプトが正しく実行されたら、ステップ 7 に進みます。
6. スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、次の手順で X サーバーを無効にします。
    - a. システムプロンプトで次のコマンドを投入します。

```
% init 3
```

- b. スーパーユーザとしてログインします。
  - c. ステップ 4 とステップ 5 を再度行います。
7. ドライバのインストールが完了したら、CD を取り出します。
  8. サーバーを再起動します。

## Solaris 10 OS オペレーティングシステム用ドライバを CD からインストール

Solaris 10 オペレーティングシステムをご使用の場合には、次の手順でドライバのインストールと診断パーティションのマウントを行ってください。

1. **Sun Fire X2100** サーバーにスーパーユーザとしてログインします。
2. **Sun Fire X2100 Server Supplemental CD** を DVD ドライブに挿入します。  
Solaris 10 オペレーティングシステムが自動的に CD をマウントします。

3. 次のコマンドを投入し、/cdrom/cdrom0/drivers/sx86 ディレクトリへ移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/sx86
```

4. 次のコマンドを使い、インストールスクリプトを実行します。

```
# sh install.sh
```

ネットワークドライバとサウンドドライバがインストールされます。

インストールが完了すると、変更を有効にするためにシステムを再起動するよう求めるプロンプトが表示されます。

5. サーバーを再起動します。
6. Xserver の選択肢が表示されたら、デフォルト設定である Xorg を選びます。
7. ネットワーク情報を求めるプロンプトが表示されたら、サーバーへアクセスするためのネットワーク情報を入力します。

## Windows 2003 オペレーティングシステム用ドライバを CD からインストール

Sun Fire X2100 Server Supplemental CD には、Windows 2003 用の NVRAID、NVIDIA ディスプレイ、NVIDIA チップセットドライバが含まれています。NVRAID ドライバをインストールする場合には、Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に、2003Reburn スクリプトを使って必要なドライバを含む新しい Windows 2003 の CD を作成するか、またはドライバをインストールするためのブートディスクを作成しておく必要があります。

Windows 2003 用ドライバのインストール手順は次の通りです。

1. サーバーで RAID 機能を使う予定がある場合には、次のいずれかの手順に従ってオペレーティングシステムをインストールする前に NVRAID ドライバをインストールします。
  - 「2003Reburn スクリプト使った RAID ドライバのインストール」(38 ページ)
  - 「ブートディスクを使った RAID ドライバのインストール」(39 ページ)
2. オペレーティングシステムをインストールします。
3. 「Windows 2003 ドライバを CD からインストール」(41 ページ)に従って、イーサネットドライバとチップセットドライバをインストールします。

---

**ご参考：** Supplemental CD は、Windows 2003 では診断パーティションをマウントしません。

---

## 2003Reburn スクリプト使った RAID ドライバのインストール

Sun Fire X2100 Server Supplemental CD (705-1364-xx) には、必要な RAID ドライバを含む新しい Windows 2003 の CD を作成できるスクリプトが含まれています。新しい CD を作成したら、その CD からサーバーを起動して Windows 2003 を通常通りにインストールするだけで、必要なドライバがすべて自動的にインストールされるため、USB フロッピーディスクドライブを接続して NVRAID ドライバをインストールする手間を省くことができます。

2003Reburn スクリプトに関する特定および最新の情報については、Supplemental CD の /drivers/utilities/2003Reburn にあるスクリプトの冒頭に記載されている説明をご参照ください。

RAID 設定を持つ Windows 2003 をインストールするには、次のものをご用意ください。

- x86プラットフォーム用Solarisオペレーティングシステム、Solarisオペレーティングシステム (SPARC® Platform Edition)、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、SUSE Linux Enterprise System (SLES) 9 の何れかが動作しているシステム
- CD パーナー
- 新品の CD-R または CD-RW
- Windows 2003 CD (製品版のみ、OEM 版は不可)
- Sun Fire X2100 Server Supplemental CD

Sun Fire X2100 サーバー用ドライバを使って Windows 2003 CD を作成するには、次の操作を行います。

1. Solaris x86、Solaris OS (SPARC Platform Edition)、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、SLES 9 を OS とするシステムで、Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を CD または DVD ドライブに挿入します。

2. スーパーユーザとしてログインし、1.2 GB 以上の容量を持つ一時ディレクトリを作成します。

例：

```
# mkdir /files
```

3. 2003REBURN\_ バージョン .zip ファイルをその一時ディレクトリにコピーします。

ここで、バージョンは、2003Reburn のバージョン番号です。

例：

```
# cp /drivers/utilities/2003REBURN_1.0.zip /files
```

4. Supplemental CD を取り出して、製品版の Windows 2003 32 CD を挿入します。

- 2003Reburn\_バージョン.zip ファイルを解凍します。

例：

```
# unzip -q 2003Reburn_1.0.zip
```

- 2003Reburn スクリプトを実行します。

例：

```
#./files/2003Reburn
```

スクリプトは、現在のディレクトリにあるはずのドライバファイルを表示します。4つのドライバファイルをすべて一時ディレクトリにダウンロードし終わると、スクリプトは、新しい ISO イメージを作成し、システムに CD バーナーがあれば、自動的にその ISO イメージを CD に焼き付けます。

- 作成した新しい CD を使い、Windows 2003 Professional を Sun Fire X2100 サーバーにインストールします。
- OS のインストールが完了したら、「Windows 2003 ドライバを CD からインストール」(41 ページ) に従って、イーサネットドライバとチップセットドライバをインストールします。

### ブートディスクを使った RAID ドライバのインストール

このセクションでは、Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を使って NVIDIA RAID ドライバのブートディスクを作成する方法と、そのドライバをサーバーにインストールする方法について説明します。

ブートディスクを使って NVIDIA RAID ドライバをインストールするには、次のものがが必要です。

- CD およびディスクドライブを持つ Windows マシン
- ブランクのフロッピーディスク
- Sun Fire X2100 Server Supplemental CD
- USB フロッピーディスクドライブ
- Windows 2003 CD (製品版のみ、OEM 版は不可)

32 ビットまたは 64 ビットの Windows 2003 用ブートディスクを作成するには、CD ドライブとフロッピーディスクドライブを持つ Windows マシンが必要です。

- Windows サーバーに Sun Fire X2100 Server Supplemental CD を挿入します。
- CD 上の次のディレクトリに移動します。

```
D:\DRIVERS\WINDOWS\OS\CHIPSET
```

ここで、OS は 2003\_32 または 2003\_64 です。

3. CHIPSET ディレクトリにある Nfref\_xxx\_srv.zip ファイルを解凍し、ローカルディレクトリ (例: C:\raid) にファイルを保存します。
4. ブランクのフロッピーディスクをサーバーに挿入します。
5. 解凍されたファイルのあるディレクトリ (例: C:\raid) へ移動し、c:\raid\IDE\Wind2003\sataraid ディレクトリを開きます。
6. ディレクトリ中のすべてのファイルを選択し、フロッピーディスクドライブ (a:) にファイルをコピーします。
7. Sun Fire X2100 サーバー BIOS で RAID を設定します。
  - a. サーバーを再起動し、Sun ログ画面で F2 キーを押します。  
BIOS セットアップ画面が表示されます。
  - b. メインメニューから [Integrated Peripherals] を選びます。
  - c. [RAID config] を選びます。
  - d. RAID の設定を [Enable] に変更します。
  - e. F10 キーを押して変更を保存し、セットアップ画面を閉じます。
8. NVRAID BIOS で RAID を設定します。
  - a. F10 キーを押して NVRAID BIOS を開きます。
  - b. 0 または 1 を選んで RAID アレイを作成します。
  - c. BIOS を終了します。
9. USB フロッピーディスクドライブをサーバーに接続します。
10. 32ビットまたは64ビットのWindows 2003インストールCDをDVDドライブに挿入します。
11. F6 キーを押して、サードパーティ製 RAID ドライバのインストールを開始します。
12. S キーと Enter を押して、追加ドライバのインストールを指定し、フロッピーディスクを挿入します。
13. [NVIDIA NForce Storage Controller] を選びます。
14. S キーと Enter を押して、追加ドライバのインストールを指定します。
15. [NVIDIA RAID CLASS DRIVER] を選びます。
16. Enter キーを押して、Windows 2003 のインストールを続行します。
17. OS のインストールが完了したら、「Windows 2003 ドライバを CD からインストール」(41 ページ) に従って、NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。

## Windows 2003 ドライバを CD からインストール

**ご参考：** 2003Reburn オプションを使って、ドライバを含む Windows 2003 CD を作成した場合は、これらのドライバをインストールする必要はありません。

Windows ドライバを CD からインストールするには、次の手順を行います。

1. **Sun Fire X2100 Server Supplemental CD** を DVD ドライブに挿入します。
2. チップセットドライバをインストールします。
  - a. 次のコマンドを DOS プロンプトに投入して、**Supplemental CD** 上の該当するディレクトリに移動します。

```
C:\> D:  
D:\> cd \DRIVERS\WINDOWS\OS\CHIPSET
```

ここで、*OS* は 2003\_32 または 2003\_64 です。

- b. このディレクトリにある **.zip** ファイルを C:\NVIDIA にコピーします。
  - c. **zip** ファイルを解凍します。
  - d. 次の手順に従って、**Windows** のデバイスマネージャを開きます。
    - i. [スタート] ボタンをクリックします。
    - ii. [マイコンピュータ] メニュー項目で右クリックし、ドロップダウンメニューから [管理] を選びます。
    - iii. [デバイスマネージャ] をクリックします。
  - e. 感嘆符 (!) の付いたドライバを右クリックし、[ドライバの更新] を選びます。
  - f. [ドライバの更新] 画面の指示に従います。

ドライバの保存場所は C:\NVIDIA\Ethernet と指定します。
3. **Broadcom** イーサネットドライバをインストールします。
    - a. 次のコマンドを DOS プロンプトに投入して、**Supplemental CD** 上の該当するディレクトリに移動します。

```
C:\> D:  
D:\> cd \DRIVERS\WINDOWS\OS\NIC
```

ここで、*OS* は 2003\_32 または 2003\_64 です。

- b. このディレクトリにある **.zip** ファイルを C:\Broadcom にコピーします。
  - c. **zip** ファイルを解凍します。
  - d. 次の手順に従って、**Windows** のデバイスマネージャを開きます。
    - i. [スタート] ボタンをクリックします。
    - ii. [マイコンピュータ] メニュー項目で右クリックし、ドロップダウンメニューから [管理] を選びます。
    - iii. [デバイスマネージャ] をクリックします。
  - e. 感嘆符 (!) の付いたドライバを右クリックし、[ドライバの更新] を選びます。
  - f. [ドライバの更新] 画面の指示に従います。

ドライバの保存場所は C:\Broadcom\subdirectory と指定します。ここで、*subdirectory* は存在する唯一のサブディレクトリです。
4. サーバーを再起動します。

## インストール済みソフトウェアの設定

---

本章では、ハードドライブがインストールされている標準的な Sun Fire X2100 サーバー構成にあらかじめインストールされているソフトウェアに関して説明します。

本章は次の各セクションから構成されます。

- 「Solaris 10 オペレーティングシステム」 (43 ページ)
- 「Java Enterprise System」 (47 ページ)
- 「インストールチェック」 (48 ページ)

---

### Solaris 10 オペレーティングシステム

Sun Fire X2100 サーバーには、Solaris 10 オペレーティングシステムがあらかじめインストールされています。本章では、Solaris 10 の設定方法およびシステムにインストールされているソフトウェアの使用方法について説明します。

#### Solaris 10 オペレーティングシステム設定の概要

サーバーにインストールされているバージョンの Solaris オペレーティングシステムのライセンスは無料でご使用頂けます。ただし、別のバージョンの Solaris ソフトウェアをインストールする場合、新しいソフトウェアバージョンに対するライセンス料を支払う必要が生じることもあります。Sun Fire X2100 サーバーは、Solaris 10 またはそれ以降のバージョンの Solaris ソフトウェアと互換性があります。詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sun.com/software/solaris/licensing/index.html>

工場出荷時の設定は、次の通りです。

- ハードドライブ上のルートパーティション－ 14.0 ギガバイト
- ハードドライブ上のスワップパーティション－ 2.0 ギガバイト
- ハードドライブ上の var パーティション－ 6.0 ギガバイト
- ハードドライブ上のエクスポートパーティション－残りのディスク容量すべて

図 3-1 に、動作環境の設定手順をフロー図で示します。

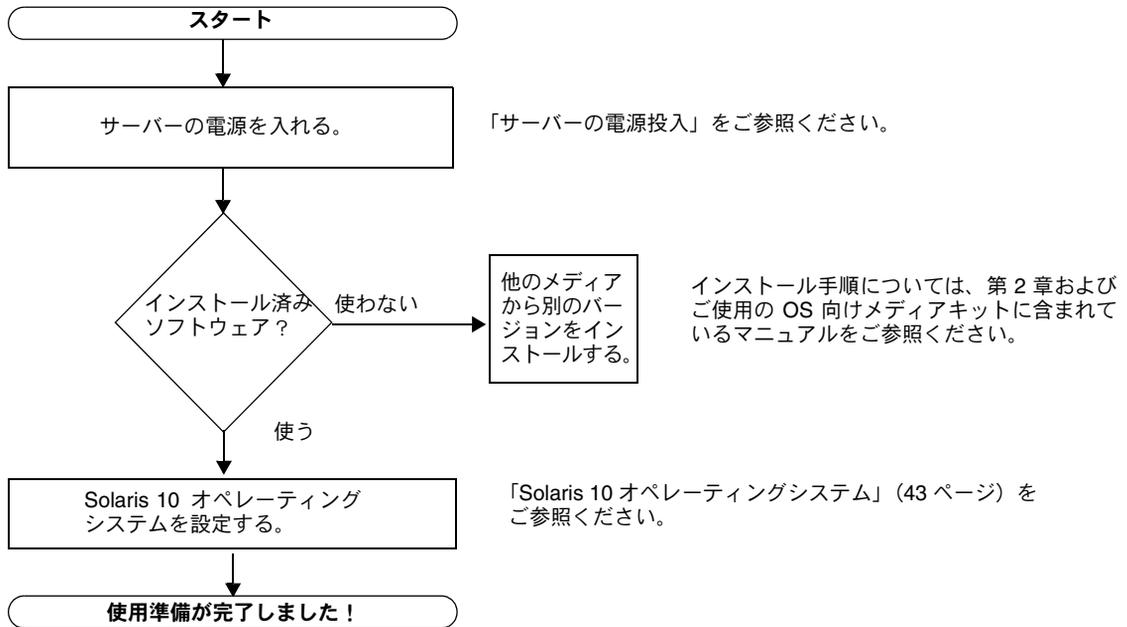


図 3-1 インストール過程作業図

## 設定の手順

出荷時にインストール済みの Solaris 10 x86 Platform Edition の設定は、次の手順で行います。

1. **Sun Fire X2100** サーバーのシリアルポート (COM 1) をシリアル端末に接続し、端末セッションを設定します。
2. サーバーの電源を入れます。  
「サーバーの電源投入」(20 ページ) をご参照ください。
3. 表示される画面の指示に従い、設定情報を入力します。  
表 3-1 に、Solaris 10 x86 オペレーティングシステムの設定に必要な情報をあらかじめ書き留めておくとう便利です。表の記入にあたっては、システム管理者 (SA) からサイト特有の情報を入手してください。ネットワークから提供される情報についてもシステム管理者にお問い合わせください。  
設定が完了すると、サーバーが再起動し、ログイン画面が表示されます。
4. ユーザ名とパスワードを入力してログインし、サーバーの使用を開始します。
5. インストール済みソフトウェアに関する最新情報については、『Solaris 10 Operating System Release Notes』をご参照ください。  
『Solaris 10 Operating System Release Notes』は、次のサイトから入手できます。  
<http://docs.sun.com>

表 3-1 インストール済み Solaris 10 の設定に必要な情報

設定ウィンドウの表示	説明と注記	入力する情報
Select Language and Locale	サーバーで使用する言語とロケール。	
Host Name	サーバーの識別名。	
Terminal Type	サーバーで使用する端末のタイプ。	
Network Connectivity  (IP Address)	ネットワークまたはスタンドアロンサーバーのプロトコル。このセクションに必要な情報はシステム管理者から入手してください。  ご参考： 入力した内容およびネットワークから得られる情報の種類によっては、サーバーの IP アドレスの入力を求めるプロンプトが表示される場合もあります。	
Security Settings	セキュリティ設定とプロトコル。	
Name Service	使用するネームサービス: NIS+, NIS, DNS, LDAP, または None。  ご参考： サーバーがネットワークに接続されていない場合には、このウィンドウは表示されません。	
Domain Name	このサーバーの NIS または NIS+ ドメイン。  ご参考： サーバーがネットワークに接続されていない場合には、このウィンドウは表示されません。	
Name Server/ Subnet/ Subnet Mask	ネームサーバー (手動で指定、またはサーバーがローカルサブネット上で自動検出)。  ご参考： サーバーがネットワークに接続されていない場合には、このウィンドウは表示されません。 ご参考： 入力した内容およびネットワークから得られた情報の種類によっては、次の情報を求めるプロンプトが表示される場合があります。 - サーバーのサブネット - サーバーのサブネットマスク	
Time Zone	現在地の時間帯 (地域、GMT オフセット、または時間帯ファイル)。	
Date and Time	現在の日時 (デフォルトの日時を使うか、現在の日時を入力)。	
Root Password	サーバーのルート (スーパーユーザ) パスワード。	

---

# Java Enterprise System

出荷時にサーバーにインストールされる Sun Java™ Enterprise System (Java ES) は、以前は独立した Sun™ ソフトウェア製品でしたが、現在は一つのソフトウェアシステムに統合されています。

Java ES インストーラは次のディレクトリに保存されています。

```
/var/spool/stage/JES_05Q1/Solaris-x86/installer
```

Java ES を起動する前に、このインストーラを起動する必要があります。

本システムの各コンポーネントは、併用時の相互運用性について検証済みです。各コンポーネントは相互に互換性を持ち、同一の共有ライブラリが使われます。また、各コンポーネントのインストールおよびアップグレードにも同一のテクノロジーが採用されています。

以下に、Java ES の各コンポーネントおよびそれらが提供するインフラストラクチャーサービスについて説明します。

- **Sun Cluster** ソフトウェアは、高可用性とスケーラビリティに関するサービスを Java ES に提供します。Sun Cluster は Java ES インフラストラクチャーおよびハードウェア環境で機能します。
- **Sun ONE Application Server** は、J2EE™ コンテナサービスをセッションビーンズ、エンティティビーンズ、メッセージドリブンビーンズなどの Enterprise JavaBeans™ (EJB) コンポーネントに提供します。コンテナは、強い関連性を持つ分配コンポーネントが相互動作を行うために必要とされるインフラストラクチャーサービスを提供し、それにより電子商取引向けアプリケーションやウェブサービスの開発および運用のためのプラットフォームを形成できます。また、Application Server はウェブコンテナサービスも提供します。
- **Sun ONE Calendar Server** は、エンドユーザ向けのカレンダーおよびスケジュールサービスを提供します。Calendar Server には、サーバーと相互動作するブラウザベースのクライアントが含まれています。
- **Sun ONE Directory Proxy Server** は、ファイヤーウォールの外から社内 Directory Server へアクセスする場合のセキュリティサービスを提供します。Directory Proxy Server は、拡張ディレクトリアクセス制御、スキーマ互換性、ルーティング、複数 Directory Server インスタンス実行時におけるロードバランス機能などを提供します。
- **Sun ONE Directory Server** は、識別プロフィール（社員、顧客、サプライヤなど）、ユーザ権限（パブリックキー証明書、パスワード、暗証番号）、アクセス権限、アプリケーションリソース情報、ネットワークリソース情報などの社内・社外ネットワーク情報の保管と管理を集中的に行うための中央リポジトリを提供します。

- *Sun ONE Identity Server* は、アクセス管理サービスおよびデジタル識別情報管理サービスを提供します。アクセス管理サービスには、認証（個別サインオンを含む）およびアプリケーションやサービスへのアクセスにおける役割ベースの認証が含まれます。管理サービスには、個別ユーザプロフィール、役割、グループ、ポリシーの集中管理機能が含まれます。
- *Sun ONE Instant Messaging* は、IM（チャット）、会議、アラート、ニュース、アンケート調査、ファイル転送などのエンドユーザ間の通信をセキュアかつリアルタイムに提供します。このサービスには、現在誰がオンラインであるかをユーザに示すプレゼンスマネージャーが含まれ、さらにサーバーと相互動作するブラウザベースのクライアントが含まれています。
- *Sun ONE Message Queue* は、それほど強い相関性のない分配コンポーネントやアプリケーション間における非同期的メッセージ交換を高信頼で提供します。Message Queue は、Java Message Service (JMS) API 仕様を実装しており、さらにセキュリティ、スケラビリティ、リモート管理などのエンタープライズ機能を追加しています。
- *Sun ONE Messaging Server* は、電子メール、ファックス、ページャー、音声、ビデオをサポートするセキュア、高信頼性、大容量のメッセージ保管および転送機能を提供します。同時に複数の保管メッセージにアクセスしてコンテンツフィルタリングを実行できるため、迷惑メールの受信拒否やウイルス防御に有効です。
- *Sun ONE Portal Server* は、ビジネス向けアプリケーションやサービスへアクセスするブラウザベースのクライアントにコンテンツ集約およびカスタム化などの主要なポータルサービスを提供します。また、Portal Server にはカスタム設定可能な検索エンジンが付属しています。
- *Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access* は、社内ネットワーク上にある社内ポータルやインターネットアプリケーションなどの Portal Server コンテンツおよびサービスへファイヤウォールの外からのセキュアなアクセスを提供します。
- *Sun ONE Web Server* は、Java Servlet や JavaServer Pages™ (JSP™) などの Java ウェブコンポーネントに対して、Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™ platform) ウェブコンテナサービスを提供します。さらに、Sun ONE Web Server は、CGI スクリプトや Active Server Pages などの静的および動的なウェブコンテンツをデリバリーする他のウェブアプリケーションテクノロジーもサポートしています。

Java Enterprise System に関する詳細は、次の Java ES 資料をご参照ください：

<http://docs.sun.com>

---

## インストールチェック

Sun の Install Check ツールは、サーバーのソフトウェアおよびハードウェアに関する設定情報を検証・表示します。Sun Install Check ツールは次のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/software/installcheck/index.html>